2020 年度
第 41 号

体育市民連帯
ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1 「大韓体育会長挑戦」カン・シヌク 愛のムチは学生のために存在していると思った

2 天安市障害者体育会の卑下発言及び障害者差別など再発防止訴え

3 「児童暴行」サッカー監督、資格停止中の活動状況 ...スポーツ倫理センターが調査着手

4 全羅南道体育会「凶器暴行・暴言」康津体育会長の重懲戒を要求

5 言い難い傷・話すことができない構造、スポーツ界の性暴力

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

체육시민연대

体育市民連帯　週刊ブリーフィング　2020 年第 41 号　　2020.11.30

01　エムスプールニュース　2020.11.25
「大韓体育会長挑戦」カン・シヌク
「愛のムチ？学生のために存在していると思った」

「私の人生が骨まで体育人だという事をお見せします」檀国大学校国際スポーツ学部カン・シヌク（64）教授の話だ。

カン教授は来年 1 月 18 日、第 41 代体育会長選挙に出馬する。スポーツ界に携わって 45 年。劣悪な指導者処遇の改善、スポーツ暴力・性暴力など繰り返される問題をこれ以上見ていられないと体育会長選挙に出馬することになったというカン教授。

カン教授が自分自身を「骨まで体育人」と言及したのには理由がある。カン教授は学生時代、学校の代表としてサッカー大会に出場した。短いが中学校野球部の生活をした。大学（ソウル大学体育教育学）時代にはホッケー選手としてプレーした。

大学卒業後も体育の縁を継続した。カン教授は体育教師として社会生活を始めた。全農女子中学で体育教師として働きながらホッケー部監督を務めた。　1987 年から 2020 年まで大学の講壇に立った時も変わらず体育を教えた。エムスプールニュースが「骨まで体育人」のカン教授に会った。

－ カン・シヌク教授「学生時代から運動は私の人生の一部だった」 －

11 月 5 日、第 41 代の体育会長選挙出馬を宣言しました。

忙しいですね（笑）。スポーツ界に携わる多くの方に会って話を聞いています。スポーツ界の現場でどんな問題や悩みがあることを確実に知っておくべきだから。

体育界に携わってから 45 年目です。誰よりも体育専門家じゃないですか。

私が見て感じたのが「全部」と思っているのが最も危険です。大学で見て聞いたことはほんの一部です。スポーツ種目だけでもどれだけ多いか。野球、サッカー、バスケットボールなどの球技からテコンドー、レスリング、柔道などの個人種目まで非常に多様です。特に時代が変わりました。

時代が変わった？

私がしばらく学生選手を指導していた時代と今はあまりにも違います。

「しばらく」というのは、いつの話をされていますか。

昔の話好きですか？（笑）　話を聞くとカン・シヌクという人間は骨の中まで体育人だという事が分かることでしょう（笑）。幼い頃から運動が大好きでした。放課後、友達とボールを蹴るのが日常でした。サッカー部の生活をしたわけではないけれど学校代表として地域大会に出場する等、運動に素質がありました。

体育教師時代、学生選手たちにホッケーを教えことを知っていますよ。

ホッケーは大学入学後初めて接しました。子供の時はサッカー、野球、ボクシングが最高でした。小学校 4 年の時の「手野球」というのもしました。ソウル市大会に出場して優勝もしましたから。学生時代から運

動にすっかりはまって過ごしていました。

運動選手になるつもりは無かったですか。

無いわけないですよ（笑）。中学 1 年の時、野球部に入りました。運動場で野球ユニフォームを着て運動する学生選手がとてもカッコ良い。「絶対に野球をやる」と決心したんだ。監督を直接訪ねて行って「野球がしたい」と言いました（笑）。快く受け入れていただいたんです。問題はその後でした。

問題ですか？

初日からひどく殴られました。今考えてみても、私がなぜ殴られたのかわからない。初めて野球部に入ってきた中学 1 年生の子に何が分かるか。野球部内での暴力は続きました。監督、コーチ、先輩たちに入れ代わり殴られた。理由があることはあった。練習の時の雰囲気が良くなかった、集まる時間が少し遅れたなど。1 週間で野球部から出ました。笑ってしまうこと何だか判る？

何ですか。

野球部監督が言う言葉が「お前が入る時は勝手に入れたかも知れないが、出る時はそうじゃない」と言うんだ。同期生たちも含めて野球部全員から殴られた。野球部を思い出すと殴られた記憶だけだ（笑）。

高校進学をサッカー特技者となるところだったという話しを聞きました。

ボールをよく蹴ったから。中学校卒業を控えて体育の先生から呼ばれました。先生が「一定の金額を出せばソウル某高校サッカー部に入れたい」と言いました。そのお金がなくて行けなかった（笑）。私たちの時は高校進学する際に試験が必須でした。試験で評価するなら最優秀の成績でサッカー部があるその学校に入ることができました。お金を出して高校進学する必要がなかったという事。もう一つあります。

どんな？

サッカー部の話が出た時、「勉強と運動のうち一つを選択しろ」と言いました。選手も学生なのに勉強と運動のうちいずれかを選択しろとね。学生時代から、それは「ない」と思った。

学生時代からスポーツ界の多くの問題を経験したわけですね。

ホッケー選手、指導者時代を思い出すと今でも胸がときめきます。 1981 年兵役（ROTC）を終え典農（ジョンノン）女子中（典一（ジョンイル）中学校の前身　訳注：ソウル東大門区の公立中学校）の教師として働き始めました。大変なことが多かった。学生を教えることからコミュニケーションすることまで簡単なことが無かったんです。大学院入試の準備をしていたので勉強もしなければなりませんでした。それでも体育はいつもいいなと（笑）。

－ カン・シヌク教授の告白　「愛のムチは学生のために存在していると思った」 －

典農女子体育教師として生活しながらホッケー部監督を務めましたね。

先生たちが自分のお金を使いながら学生選手を教えた時代です。ホッケーは有望な種目ではないから、学校の支援が多くありませんでした。全国大会で成果を出すまでは非常に大変でした。ホッケー部は家庭環境が厳しい学生選手が多かったです。ホッケーで奨学金を受けて高校進学しなければならない学生でした。僕のすべてをかけて教えました。

成績負担が大きかったようですが。

率直に言います。1982 年の冬初めてホッケー部監督を務めました。（淡々とした声で）学生選手をたくさん叩きました。その時も学生選手のために叩くのだと思いました。学生選手を強く詰めて指導してこそ、その子供の将来が明るいと信じていました。実際に創団 6 ヶ月で全国大会準優勝を獲得した。そんな私の考え

を変えた一場面があります。

一場面ですか？

典農女子中が全国大会準優勝をしてホッケー界で有名になりました。多くのチームが典農女子中と練習試合をしようとしました。私たちよりも弱いチームと練習試合をした時でした。私たちは序盤から大きくリードしていた、試合中でした。相手監督がそのチームの選手を呼んで頬を叩いたんです。愛のムチが一般的な時代ですが、普通は公開された場所でムチを打たないから。ところが、そんな場面を初めて見たのです。衝撃でした。

ウーム。

学生選手を殴るその監督が非常に醜く見えました。同時に過去の時間が戻ってきた。自分自身に尋ねました。 ’自分とあの監督の違う点は何か’ 自信を持って答えるのは難しかった。当時、学生選手たちの将来のために愛のムチを振るっていると確信していました。少なくとも高校進学の時の授業料免除は受けなければならなかったから。はい、私が間違っていたのです。

間違っていた？

学生選手のために愛のムチを振るうのではない。完全に自分のためだった。他の指導者との競争の中で負けたく無かったんです。何千回反省して誓いました。二度と学生選手たちに物理的な力を加えないと。その後、愛のムチを振るったことはありません。龍山（ヨンサン）高ホッケー部監督時代にも同様だった。教師時代に愛のムチという名の暴力を行使したことを今でも後悔して反省しています。

教師から教授に変身した理由がありますか。

1980 年代、全国大会に出場して成績を出せば表彰を受けました。ホッケー部をよく指導すれば奨学士になって校長まで夢を見ることができました。典農女子中ホッケー部を 6 ヶ月で全国大会準優勝に導きました。その後も着実に成果を出しました。奨学士 0 順位だった。問題は龍山高ホッケー部監督時代に起こりました。

何の問題でしたか。

龍山高ホッケー部は同窓会支援で運営されていました。龍山高運動部卒業生が支援金を出します。典農女子中と運営方式が違いました。龍山高同窓会のある方がホッケー部の人員を減らそうとしました。葛藤が生じるでしょ。当時龍山高ホッケー部が 27 人でした。少ない数ではありませんでした。問題はホッケー部の学生がホッケーをやめたら何をするんだという事でした。

悩みが大きかったですね。

1980 年代には高等教育が義務ではありませんでした。（訳注：2019 年 4 月に 2021 年から高校義務教育化の重要な要素の一つである高校無償教育を全面施行することを決めたが、義務教育にはなっていない） 授業料を出せなければ学校に通えないんです。当時ホッケー部の生徒の家庭の事情は非常に困難でした。ホッケーをやめた瞬間、体育特技者が受ける授業料免除が消えます。生徒にとって大学進学は次の問題でした。何とか防ごうとしました。支援金が少なければ少ないなりに辛抱しようとしたんです。しかし思い通りに解決しませんでした。心が揺れました。

心が揺れた？

それが大学院卒業時期でした。学生のためにもっと大きな事をできないだろうかと悩んでいた中でした。結局、いろいろ悩んだ末に教師を辞めて教壇に立ちました。

－ ″大学で最も強調している事は？　どんな人なのか、いつも考えなければならない」 －

1989 年から檀国(タングク)大教授として学生を教えました。

教師時代と大きく変わった事はありませんでした。体育を愛する心には変わりなかったんです。以前よりも少し大きな学生を教えるという差があるだけでした（笑)。大学の教壇に初めて立った日から学生に常に強調する事があります。人に教える人は常に「責任感」を持たなければならないという事です。指導者は単に技術だけを教える者ではない。体育指導者は青少年と青年たちの人格に深く関与している。私たちは学生時代に先生から何を学んだのか明瞭に覚えていません。代わりに、その先生がどんな人だったかははっきり覚えています。過去教えた選手に私が良い指導者、良い先生として記憶されたら、私をそう覚えている選手も良い市民、良い人、良い指導者に成長する確率が大きいと考えます。

常に学生たちと息を合わせてスポーツ界の発展に尽くしています。第 41 代の体育会長選挙に出馬した理由がありますか。

スポーツ界には私がホッケー部監督時代に会った弟子たちのように関心と激励が必要な方が非常に多いです。まず指導者の生計維持と関連して私たちが関心を払う必要があります。多くの指導者が生計に苦労しています。健全なスポーツ界にするために体育指導者の生活の問題から解決しなければなりません。そうしてこそより良い体育人を養成できます。第 41 代大韓体育会長選挙に出馬しながら 4 つを約束しました。

最初は何ですか。

国民のための大韓体育会に生まれ変わらなければいけないという事です。政府が大韓体育会と特殊法人を作った理由は明らかです。政府がすべきことを代わりにしろという事です。だから法人設立をしてやり、お金も与える。スポーツが国民の健康に責任を持ち、人生の活力源の役割をすること。大韓体育会は多くの方が見て学べる体育人を養成するために率先しなければならない理由です。

第二の公約では「100 歳時代」体育人を述べました。

簡単に言えば、選手たちの引退後の悩みを軽減してあげる事です。体系的な教育システムを構築し、選手たちが引退後の生活を心配せずに生きていけるようにするのです。そのために教育が本当に重要です。

－「スポーツ界の問題解決？指導者の処遇改善が始まりだ」－

教育が重要だ？

運動部の子供を持つ親からこのような話をよく聞きます。「子供に私がお金を出して運動させるのに、なぜしきりに教育（勉強）を強要するのか」というものです。胸が痛いです。学生選手に勉強を強要するものではありません。基礎の素養教育を通して不測の状況に備えようというのです。社会のどんな分野に行ってもすぐに適応できるように準備しようというのです。引退後、第 2 の人生を生きていく選手がよく言う言葉があります。

どんな言葉ですか。

「社会ではコミュニケーションができない」ということです。運動選手生活をしながら使う用語と社会で使う言葉が異なるのです。自分たちが運動しながら使った言葉は限定的だが、社会はそうでないということでしょう。そのような問題を回避するために教育するのです。誰でもがサッカーのソン・フンミン、野

球の柳賢振（リュヒョンジン）のような世界的スターになることはできません。成功するのはごく一部です。第2の人生を常に備えなければ。大韓体育会が行う事です。

第三の公約で「任期（4年）内に暴力・性暴力の問題を完全に取り除く」としました。体育界の暴力・性暴力は一日二日の問題ではありません。完全なくすというのは可能ですか。

言った言葉を守れなければ責任を負います。より多くの公約を掲げこともできました。しかし守れるだけの約束をする事にしました。その中の一つがスポーツ界の暴力・性暴力の問題根絶です。自信あります。

具体的な方策を聞きたいです。

10年前までは軍隊や大学も暴力・性暴力の問題が絶えませんでした。大学では学生に暴言を吐いたり、性的冗談を言う教授が多かったです。今はありません。パッと減りました。誰がどんな間違いをしたのか明確に知ることができます。処罰を避けることができないシステムが備わったからです。

システムですか？

大韓体育会長に当選すれば1年で最低2回の全数調査を行います。大韓体育会、プロ連盟などに登録された小学生選手からプロまでの全選手を調査するでしょう。面倒ではありません。アプリケーションを開発して携帯電話で調査を行うつもりです。常時モニタリングシステムも構築できます。調査結果は必ず機関長に通知するようにするつもりです。

問題を起こした指導者に対する処罰が弱いとの指摘があります。一例として男子スポーツで問題を起こした指導者が女性、障害者体育界に越えてくる事例があります。

問題を機関長に通知するだけのものではなく過ちを犯した人に確実な処罰を下さなければなりません。ここで一つ考えなければならないことがあります。最も簡単なのは過ちを犯した人を永遠に追い出す事です。二度とスポーツ界に足を踏み入れないよう追放するでしょう。大衆が許せない問題を犯したらそうしなければなりません。しかし全てをそのような方法で追い出すことはできません。

どうしたらよいですか。

過ちに応じた処罰を受けて一定期間が経過したら赦免される体育人がいるでしょう。そのような人々は、再びチャンスを与えなければならい。善原則主義者です。厳格です。ただし、その厳しさを装って指導者の人権を侵害することは防がなければなりません。過ちを償い新しい人生を生きていくことができるよう支援することも大韓体育会の役割と見ます。

教授が最も強調するのが体育指導者の処遇改善です。教授が大韓体育会長に当選されたとしても大韓体育会の予算が突然急に増えません。予算は限定的です。どのような計画を持っていますか。

最後の公約です。指導者の状況が非常に劣悪です。学生を教える指導者のほとんどが1年契約職です。今まさに仕事を始めた新入と20年目のベテランの給料に大きな違いがありません。自分の仕事に最善を尽くしながら普通の生活を営めなければなりません。結婚して子供を産んで平凡な家庭を築くのが夢のようなことであってはなりません。汗を流しただけ正当な対価を受けることができる給料体系システムを備えなければなりません。

2020年大韓体育会が政府から受け取った予算は4000億ウォンです。予算の拡充が必要になります。どこかで予算を減らすか、または他の場所からお金を持ってこなければなりません。

容易ではないですね。しかし、大韓体育会がしなければならないことです。例を挙げてみます。たばこ税でみると健康増進目的基金があります。多くのスポーツ界の指導者が健康増進に力を入れています。とこ

ろが恩恵はありません。スポーツ界の公正な取り分を持ってこなければなりません。自分独自の指導哲学を広げ、親に負担を広げない環境に必ずしたいと思います。

4年後の教授はどんなスポーツ界を夢見ていますか。

先進型スポーツ強国。運動しやすい国です。誰でもいつでもどこでも運動できる環境を作ります。運動する人が正当に扱われ、運動するのが誇らしい韓国になるでしょう。米国のように運動と学業を並行するのが当然になるでしょう。主種目一つずつは持って社会に出て一生共にするシステム。想像するだけでも胸が躍ります。

スポーツ界で45年在籍しました。誰かを教えて評価するリーダーとして生きてきました。教授が評価するカン・シヌク教授はどのような体育人ですか。

過分な待遇を受けて生きてきた体育人です（笑）。学生選手たちのより良い生活を心配して、体育界の発展に貢献して感謝した方に非常に多く会いました。いま私が報いるべき時です。学生時代からずっとスポーツ界と一緒にいました。言葉より実践的でお見せします。

出典：https://www.mbcsportsplus.com/news/?mode=view&cate=33&b_idx=99791972.000#07D0

02　忠清日報　2020.11.25

天安市障害者体育会の卑下発言及び障害者差別など再発防止訴え

忠南人権教育活動の集まり「かまど」と体育市民連帯（以下市民連帯）は最近、天安市役所玄関前で天安市障害者体育会の人権蹂躙真相調査を促す記者会見をして再発防止などの対策作りを訴えた。

市民連帯は24日の記者会見で、天安市障害者体育会所属職員が障害者卑下発言と障害者差別、セクハラ、職場いじめを加えたとして今回の事態について市民に対する謝罪を求めた。

また、障害者体育会について行政点検の実施と点検結果、措置計画開示、人権の専門家などを含む調査団による徹底した真相調査を実施、その事案の人事委員会の開催、再発防止対策の樹立と発表などを要求した。

続いて、4月に人事委員会が行われたが役員委員が外部の人権専門家が全くいない内部理事で構成されて被害者の事情が正しく反映されておらず、被害事実の調査委員会も開かなかったと主張した。

この他に、国家人権委員会、雇用労働部から計4回人権侵害、職場いじめ、セクハラなどの決定を受けたが、追加の人事委員会が開かれずにおり、早急な開催を強調した。

これに対して市の関係者は、「26日午後4時、市役所状況室で障害者差別の件とパワハラ・いじめの件についての人事委員会を開催して懲戒するかどうかを見極めることになる」とし「現在、関連チーム長は業務排除を進めていることを知っている」と説明した。

続いて「障害者体育会に昨年11月に障害者卑下発言が申告受付され、12月に障害者体育会独自の調査委員会の調査に基づいて卑下発言の合理的な懲戒を勧告したことがある」とし「4月には人事委員会を開催

して懲戒処分し、同月に国家人権委会の調査の結果、障害者卑下発言があったと認められたという意見が寄せられ、今回の人事委員会を準備した」と述べた。
人事委員会は天安副市長など7人で構成されている。
出所：http://www.ccdailynews.com/news/articleView.html?idxno=2018649

03　日刊スポーツ　2020.11.27
「児童暴行」サッカー監督、資格停止中の活動状況
...スポーツ倫理センターが調査着手

「児童暴行」を犯した少年サッカー監督Aが資格停止期間中に活動した情況が捉えられ、スポーツ倫理センターが調査に着手した。
Aは児童福祉法違反（児童虐待）で2019年に刑事罰を受けた。大韓サッカー協会（サッカー協会）はその年の4月に公正委員会を開き、Aに資格停止1年6ヶ月の懲戒を確定した。公正委員会の規定上、選手への暴力は資格停止1年以上から除名までだ。被害者側は懲戒が弱いという理由で大韓体育会に再審を申請した。大韓体育会は再審を棄却した。
その後、被害者側はAが資格停止期間中に活動したことを把握した。 2020年3月にAが指導するクラブのトレーニング日程計画表に担当指導者としてAの名前が表記されていた。 2019年7月の公式試合にはAが姿を現した。試合後半Aは投入を控えた選手一人の腰をつかんでサイドラインのすぐ前まで一緒に来た。その後、彼はチームベンチに歩いていった。この様子が映像で撮られた。
公正委員会規定の資格停止を見ると、「一定期間、構成員としての資格を停止し、該当期間の登録が不可能になる（チームベンチ・選手控室・本部席などの競技場施設内入場禁止)」と記載されている。また、「資格停止の場合、特に明記しない限り指導者・選手・役員・審判・仲介人などサッカー関連のすべての活動の停止を意味する」と説明している。
これについてサッカー協会は、「人員の限界もあり、毎回見守ることもできない。一線の学生、選手、保護者等の届出がないと事実上の管理と監督が難しい。大会ではなく訓練でどれだけ介入してこのようなことを把握するのか難しい」と説明した。
資格停止中の活動が摘発されれば追加懲戒が避けられない。サッカー協会は7月に「懲戒中の無資格指導者の指導行為の禁止と関連注意通知」というタイトルで17の市・道協会と一線登録チームに公文書を送った。 「協会公正委員会規則の懲戒類型別懲戒基準では、無資格指導者の指導行為（ベンチ着席および競技場外の指示行為を含む）を禁止している。これに違反した指導者は資格停止1年以上5年以下の懲戒に処すことができ、無資格指導者の指導行為を受けた選手にも懲戒が下されることがあるので、不利益が発生しないように万全を期してほしい」という内容だった。
大韓体育会の関係者も「資格停止は大韓体育会が正式に運営する大会、制度圏内で制裁が可能だが、私設クラブ指導などは制裁するのは難しい部分がある。サッカー協会でまず措置しなければならない」と説明した。

サッカー協会は7月、Aに対する調査を一度実施した。まだ追加懲戒を下していない。 Aの資格停止は去る10月に終わり、サッカー協会に戻って指導者として登録した状態だ。
サッカー協会は「Aについて独自の調査を進めていてまだ不十分な部分があり、総合的に調査している。調査が終わっていないので、まだ公正委員会に回されていない。次にこの件についての公正委員会を開くことができる。全体的に検討する。調査中なので他の回答はできない」と述べた。
Aは本紙との通話で〝私は資格停止期間中に活動したことはない。虚偽事実だ。監督として指導しなかった。個人としてする私設チームだ。子供たちを教えるのはチーム指導者がいる。私は経営している状況だ。すべて捨てることはできないだろ。サッカー協会から会社出勤もしないようにというので、そのようにまでした。悔しい部分がある。釈明する」と述べた。
動画に捉えられたシーンについては、「競技場に行ったのは確かだ。事実、競技場に入ってはならないことを知らなかった。(規定違反) これだけについて言えば、私は言うことがない。しかし、息子のような子供たちであり、励ましのためにそうしたのだ。この部分を歪曲して見れば、歪曲された視線が正しくない」と強調した。
被害者側は9月にスポーツ倫理センターに申告した。スポーツ倫理センターは文化体育観光部スポーツ不正申告センター、大韓体育会クリーンスポーツセンター、大韓障害者体育会体育支援センター申告機能を統合してスポーツ界から独立した地位としてスポーツ界の人権侵害と不正を調査するために8月に発足した。サッカー協会は、「スポーツ倫理センターがこの内容を調査している。要求された資料を全て送った」と述べた。
出典：http://isplus.live.joins.com/news/article/article.asp?total_id=23931383

04　ニューシス　2020.11.26

全羅南道体育会「凶器暴行・暴言」康津(カンジン)体育会長の重懲戒を要求

「公務員凶器暴行と暴言」物議をかもした全羅南道康津と宝城(ボソン)体育会長について上級団体である全南体育会が資格停止などを含む重懲戒を要請した。
全羅南道体育会は最近、懲戒権限があるスポーツ公正委員会を開き、康津体育会長には資格停止1年以上の重い懲戒、宝城体育会長は懲戒のための手続きを進めることを地域体育会に要求したと26日、明らかにした。
全羅南道体育会スポーツ公正委は康津と宝城体育会長の場合、凶器を利用して暴行をして公務員に暴言などをした行為は「パワハラ」に該当するとし、強い規律が必要であるとの意見をまとめた。
また、選出を通じて当選した体育会長の懲戒は上級団体が直接行うことができず、議論の結果をその体育会に要求したと伝えられた。
康津と宝城体育会が全南体育会スポーツ公正委要求よりも弱い懲戒をしたり、懲戒委を開けない場合は、再審を要請する方針だ。

再審でも懲戒が弱い場合には全南体育会が主催するスポーツ大会やイベント、予算支援から排除して会員資格まで剥奪する計画であることが分かった。
康津体育会は現在、会長が拘束状態であることに基づいて副会長を中心に近いうちにスポーツ公正委を開いて懲戒レベルを決定する予定である。
宝城体育会は懲戒要求案を受けたものに沿って独自のスポーツ公正委を開き、最終的懲戒レベルを決定して全南体育会に知らせる計画だ。
これと共に全南体育会は民選体育会長と種目別会長、監督とコーチ、選手との間の人権侵害などの問題を把握するために全員調査を準備している。
現在人権センターを設立して委員長を選任済みで、部門ごとに人材を補充して調査団を設けた。しかし現在、全南地域にコロナ 19 が急速に広がっており、実質的な調査をできないでいることが確認された。
全羅南道体育会の関係者は、「選出された会長であるため上級団体からは懲戒を要請することができる」とし「もしその体育会で要求案よりも弱い懲戒を行う場合には再審をした後、全南体育会が自主的に該当する体育会について制裁措置まで計画している″と述べた。
一方、康津体育会長は「行事が終わった後、自治体首長との食事の席を相談しなかった」として公務員を凶器で暴行し反省文まで書かせて拘束された。
宝城体育会長は予算と関連して担当公務員に相談する過程で暴言を吐き、監査を拒否するなど物議をかもした。
宝城公務員労組は最近、宝城体育会長を補助金流用などの疑いで警察告発し、全羅南道警察庁広域捜査隊が捜査をしている。
出典：https://newsis.com/view/?id=NISX20201126_0001248400&cID=10201&pID=10200

05　スポーツトゥデイ　2020.11.25
言い難い傷・話すことができない構造、スポーツ界の性暴力

＜2020 年実業チーム選手の人権侵害実態調査結果報告書　/提供=全ヨンギ議員室＞

昨年、シム・ソクヒの勇気ある告白は「スポーツ界ミートゥー運動」につながった。これまで被害事実を隠して一人で抱え込んでいなければならなかったスポーツ界性暴力の被害者が初めて声を出した。彼女らの恨みを抱いた訴えは大きな衝撃を与えた。しかし、いまだに言葉に出せない被害者が多い。

▲全体性暴力被害経験者の 68.8%、届出思いもよらなかった

スポーツ界は遅れて対処に乗り出した。昨年 1 月 25 日、ショートトラックのシム・ソクヒ事件以後、政府レベルで「性暴力などスポーツ界の不正根絶対策関係部署合同ブリーフィング」を発表し、不正申告時に加害者の懲戒を強化し、性暴力事件隠蔽や矮小化時に最大懲役まで刑事処分できるようにするなどの対策を打ち出した。その後も政府はもちろん、大韓体育会は各種目団体でハラスメント防止と強い処罰などをテーマにしたさまざまな発表が行われた。

しかし、過去 1 年の間に変わった事は多くなかった。国会文化体育観光委所属の全ヨンギ共に民主党委員が文化体育観光部から提出を受けた「2020 年実業チーム選手の人権侵害実態調査結果報告書」によると、回答者全体の 3.1%が「直接性暴力被害の経験がある」と答えた。性暴力を行使した主な加害者はコーチなど指導者が 66.7%で、次には先輩（36.6%）、同僚（4.3%）の順となった。

問題は全体の性暴力被害経験者の 68.8%は、されても言えなかったという点である。指導者と選手の関係で積極的な対応が難しいということが一番大きな理由であり、指導者が持つ権限のため抵抗が難しいという理由、性暴力問題で自分のイメージが損なわれるからという認識が続いた。

垂直的で強圧的な指導者 – 選手、先輩 – 後輩の関係、過度に肥大化した指導者の権力など根本的な構造改善なしでは現状改善に効果がないことが如実に表れたわけだ。

▲スポーツ界の性暴力、依然として軽い処罰が蔓延

処罰の強化を約束したが軽い処罰が続いていることも問題だ。最近 2 年間に受け付けられた性暴力被害現状の処理結果を見ると、出場停止と資格停止 6 ヶ月 2 件、資格停止 1 年 2 件、資格停止 3 年 2 件、進行中 3 件があった。加害者の処罰が低いので出場及び資格停止期間後に性暴行加害者が再びスポーツ界に復帰して被害者と一緒にスポーツ活動できることが分かった。

スポーツ界に二度と足を踏み入れないようにしなければならないのに、図々しく彼らは元の位置に戻ってきた。選手の人権よりも成績と実績が強調される社会的な雰囲気のためである。どんな人権侵害問題が発生しても成績が良ければ帳消しとなるこのような現実は、被害者を落胆させる。

スポーツ界特有の閉鎖的な組織文化も被害を育てる原因として指摘される。選手たちが継続して運動をするためには強大な権力を持つリーダーの言葉に従わなければならない。被害選手が申告をしてもスポーツ界から去らない以上、継続して加害指導者に会うしかない構造的な問題で 2 次被害に遭うことが発生し、実際に被害を受けても申告することは容易ではない。

一例として、2016 年光州のある高校バレーボール部の選手 3 人がコーチに数回セクハラを受けた。彼女達はどうにか被害事実を学校に知らせた。この事件に接した他のバレーボール部員もそれぞれのセクハラ被害事実を陳述書に記載し被害学生と意見を共にした。

事件はコーチの重い懲戒になるように見えたが部員たちが突然態度を変え、新しい局面を迎えた。立場を変えた背景にはバレーボール部監督と父兄の見えない影響力があった。コーチのセクハラの事実が水面上に明らかにされた場合、チームは解散されて本人の進学に否定的な影響を与える可能性があり、選手たち

と保護者が被害生徒に事件を伏せることを勧めたもの。結局被害選手3人のうち2人は別の学校に転校をし、もう一人はバレーボール界を去った。
当時の事件を担当した光州地方裁判所1審裁判部（裁判長カン・ヨンフン）は、1審でコーチに懲役2年の刑を宣告した。以後2審は被疑者に懲役3年、執行猶予4年の刑を下した。 1審で宣告した被害事実は認めたが、2審に先立って被害者の一部との合意がされたこと、被告の家族や仲間たちが善処を望む嘆願書を提出したことなどが、新しい量刑要素として考慮されて執行猶予に減刑された。

▲性的暴行根絶のための新機構「スポーツ倫理センター」発足、捜査権などの独立性が確保されなければ
一連の事件を通じてスポーツ界は性暴力根絶のために実効性のある対策を取れる独立した機構の必要性を痛感した。スポーツ革新委員会からはスポーツ界から分離されたスポーツ人権専門機構を設立することを勧告され、8月にスポーツ倫理センターが発足した。
研究共同体人権とスポーツの金ドンヒョク代表は「既存の大韓体育会が運営してきシステム（クリーンスポーツセンター）は被害者の保護にとって非常に脆弱な環境を持っていた。スポーツ界の先輩・後輩につながるため、申告が入るとすぐに加害者の耳に入って被害者を圧迫してきた。これに被害者は落胆し、システムの信頼性を失うことになり、申告しても解決できないとの認識を持つようになり、ますます取り組みが難しくなった」とし「スポーツ倫理センターは独立性を確保して、被害者の2、3次の被害が発生しないようにしなければならない。この他にも政策の改善の研究、予防的次元での人権教育、文化と底辺の変化を導くことができるように人権に関する市民的広報と協力体系を確立していくことが重要である」とスポーツ倫理センターの課題を伝えた。
現在、スポーツ倫理センターは加害者を調査・処罰する捜査権と懲戒権がなく、事件の真相究明を徹底的にするには限界がある。最近、国会でスポーツ倫理センターに司法警察職務を付与するようにして、直接捜査と告発が可能なように法の変更を進めている。
スポーツ倫理センター李スクジン理事長は、「現行の国民体育振興法では関連体育会で懲戒要求を受け入れなくても、それに伴う罰則規定がない。またスポーツ倫理センターは直接調査する権限は持っているが、捜査機関のように捜査権を持っていないので証拠を確保などが難しい限界がある。これに関連して司法警察管理の職務を遂行する者とその職務範囲に関する法律（司法警察職務法）改正案が発議され、国会に係留中」とした。
続いて「体育人の人権を促進させることができるように関連法、制度などが改善されなければならない。加害者を厳正に処罰して性暴力について体育人の認識変化につながるようにしなければならない。性暴力を行使してどんなに良い成績を出しても、私たちが求めるスポーツではないことを忘れてはならない」とし「このために学生選手の時から人権教育を実施することが非常に重要だと考えている」と説明した。
スポーツ性暴力の問題は、その深刻さに比べて私たちの社会で大きな注目を受けられなかった。軽い処罰と隠蔽のような安易な対応が今の事態を呼び起こした。これ以上の容認はスポーツ界の退化を意味する。
韓国スポーツが前に進む、新しい100年のために今こそ本当に変わらなければならない。
出典：http://stoo.asiae.co.kr/article.php?aid=68901861198

スポーツ界人権侵害情報提供および支援活動案内

体育市民連帯は
「トライアスロン選手死亡事件共対委」と
「民主社会のための弁護士会スポーツ人権チーム」所属
１０数人の人権弁護士の方々と一緒に
被害者相談および法律支援活動をします。
スポーツ界人権侵害情報提供がされたら
初期相談を通じて法律支援が必要な方々を支援します。

下のアドレスに情報提供して下さい。

共同対策委員会
forsportsreform@gmail.com

体育市民連帯
sports-cm@daum.net

体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行　086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&iInquiryNo=2

INFOMATION
体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号
Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/
日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com